

平成 28 年度 福祉文教委員会（後期） 行政視察報告書

1. 視察日程 平成 28 年 10 月 24 日（月）～10 月 25 日（火）

2. 視察先及び視察内容

(1) 愛知県みよし市（10 月 24 日）

認知症施策について

(1) 愛知県碧南市（10 月 25 日）

高齢者ほっとプランについて

3. 参加者

	<u>長田 文明</u>	<u>土屋 光行</u>	<u>勝亦 功</u>
	<u>神野 義孝</u>	<u>小林 恵美子</u>	<u>辻川 公子</u>
当局職員	<u>瀬戸 進吾</u>	(健康推進課長)	
事務局	<u>藤曲 幸子</u>	(議会事務局)	

4. 視察先対応者

みよし市	<u>岡田 高行</u>	(福祉部長寿介護課長)
	<u>近藤 隆彦</u>	(認知症地域支援推進員)
	<u>久野 秀夫</u>	(みよし市議会事務局長)

碧南市	<u>池田 竜也</u>	(健康推進部高齢介護課長)
	<u>大野 孝男</u>	(議会事務局議事課長)

5. 視察内容

■ 『 認知症施策について 』

平成 28 年 10 月 24 日（月） 15 : 00 ～ 16 : 30

《視察研修の目的》

新オレンジプランを推進するなかで、特に普及啓発と、医療介護の提供における、みよし市の先進事例を研修する。

《視察先の概要》

愛知県のほぼ中央、名古屋市と豊田市の間に位置し、トヨタ自動車の工場、自動車関連優良企業が立地。名鉄豊田線や東名高速道路が市内を貫通、交通の便もよく名古屋市や豊田市のベッドタウンである。

《視察内容》

1. 認知症サポーターキャラバン事業
サポーター一人当たり担当高齢者人口が市部門で日本一
2. 認知症初期集中支援チームと認知症地域支援推進員
医療系職員+介護系職員のチーム連携
認知症サポート医－みよし市民病院等の連携
認知症サポート医－医療系・介護系職員－地域包括支援センターとの連携
3. 認知症カフェ『オリーブ』
社会福祉法人と連携し、歌・回想法事業を展開、市の介護予防普及啓発事業として実施
4. あいちオレンジネットワーク
近隣の市町、日進市・長久手市・東郷町・豊明市・みよし市でネットワーク
行方不明者捜索依頼メールの配信依頼・協力依頼

《考 察》

1. 認知症サポーター講座を小学5年生向けに開始、市内中高、大学にも波及させた。学校と協力し、低年齢から認知症サポーターへの取り組みを始めたことはサポーターの確保、市民の協力体制作りなどに非常に有効である。
2. 認知症初期集中支援チームは市直営で設置、市職員と病院職員を中心に市内事業所の協力を得てチーム編成をしている。地域支援推進員も関与しており本人・家族からの相談に対して幅広く指導・助言が行われることは市民にとって有効である。
3. 市が法人の自主事業の広報等に協力している形態なので、ハードルが高い課題である。しかしながら、今後は、認知症地域支援推進員の増設に伴い、3か所に1か所程度カフェを作るように改善策を取る方向である。
4. 近隣市町で連携し、行方不明者情報を相互にメール送信しているが、メールの登録者が発見した事例はまだない。しかし、広域化することで5市町のアイデア、ノウハウを集約することができ、マニュアル作りや対応等の情報共有を図ることができている。



みよし市役所

■ 『 認知症施策について 』

平成 28 年 10 月 25 日（火） 13 : 30 ～ 15 : 00

《視察研修の目的》

碧南市高齢者ほっとプランについて研修し、碧南市高齢者元気ッス館（碧南市東部市民プラザ内）の内容と効果について現地視察をし、研修する。

《視察先の概要》

愛知県のほぼ中央、名古屋 40km 圏内に位置、周囲を水に囲まれる港湾都市。古くから海上交通の要衝で港町として栄えた。1957 年に衣浦港が重要港湾指定を受け大規模な臨海工業地帯が造成され、中部電力・トヨタ自動車・系列自動車産業などが進出、西三河地域の海の玄関口として重要な位置を占める。

《視察内容》

1. 高齢者無料入浴サービス
外出促進を目的に 65 歳以上の方は 4 か所の入浴、温泉施設が利用できる
2. まちかどいきいきサロン
在宅高齢者 65 歳以上の方が、地元商店街組合と連携し、レクリエーションや食事会を開催
3. 高齢者元気ッス館
高齢者の交流場所として利用し、浴室、寝湯、歩行浴、露天風呂、カラオケルーム、囲碁将棋室、ジムなどを利用
4. 貯筋ルーム
筋力マシーンを使い、60 歳以上の方無料で、指導員が配置され、立ち座り、歩行動作の安定、姿勢改善等の運動能力の向上を図る

《考 察》

1. 人口 72,000 人の都市で、かつ高齢化率が低いにも拘わらず 4 か所高齢者無料の入浴サービスを実施している。
2. 空き店舗や公民館等を活用して、独居の方、高齢者の方の外出促進を図り活気ある活動を目指している。
3. 東部市民プラザの中に満 60 歳以上を対象にした入浴施設、カラオケ、娯楽室、「貯筋ルーム」(スポーツジム)を設置し、介護予防や健康相談に応じた施設運営を、ほかに 2 か所で行っているなど、独自の施策を国の指導等通達の以前から実施していることが見受けられた。
4. パワーリハビリテーションの理論に基づき、有酸素運動、運動による快適さ、有用な物質分泌等のため軽い負荷をかけ、神経・筋を再活動化させて、操作性の向上・維持を図るトレーニング。

今回視察したみよし市、碧南市では高齢者福祉施策が似通っている。健康寿命の延伸、介護予防、認知症対策等の高齢者問題について危機感を持ち課題に対応し、あらゆる施策に取り組んでいる姿勢を感じた。当市においても先進市を参考にして近隣市町とともに導入を検討すべきであると考えます。



碧南市役所



貯筋ルーム